



広厳寺寄席(第十二回)  
三遊亭鳳楽独演会

期日 十月二日  
時間 午後五時開演  
場所 広厳寺本堂  
定員 三百名  
チケット 千円  
\*八月より売り出し開始



子ども禅のつどい開催

七月二十八日〜二十九日  
十七教区寺院で毎年行っている「子ども禅のつどい」、今年は五十回目となります。十年ぶりに当寺で開催されます。初回参加された子ども達は還暦を過ぎているかも知れません。継続は力なり、今でも参加してくれた人たちは坐禅会の思い出を話してくれます。



これからの時代を担う子どもたちです。美しい心、やさしい心、人を思いやる心を育てましょう。ご参加お待ちしております。

\*詳細は別紙

口梅花だより

▼宗務所主催検定会

期日 七月二十八日  
会場 市民ホールあがの  
当梅花講より三名受験します。  
▼大般若法要



六月十日の当寺恒規大般若法要にて奉詠しました。奉詠曲は三宝御和讃、花供養御和讃、正法御和讃、追善供養御和讃、聖号です。

\*梅花流詠讃歌(御詠歌)を始めませんか。お釈迦さま、道元さま、瑩山さま、諸仏・諸菩薩さまを讃え、ご先祖さまを敬うところを学ぶことができます。

仏事の知識

ロウソクを灯す意味

ロウソクを灯すのには二つの意味がある。一つは、ロウソクの炎は「仏の智慧」を表す。ロウソクに火をつけるとその場がすぐに明るくなるように、その炎は私たちの心を明るく照らしてくれる「仏の智慧」です。ご仏前に灯すことによって、ご本尊様が私たちの生きる道を、人生の道筋を明るい「悟りの智慧」で照らしてくれているのです。二つには、ロウソクは人間の一生に喩えられる。火をつけた時が生まれたとき、そして自らのロウを燃やし続け、やがて消えるときがやって来る、寿命を終えた時です。無常の風が吹けば途中で消えることもある、病氣や突然の災難によって。この世の「無常を觀ぜよ」とロウソクの炎は教えてくれている。なお、お仏壇のロウソクはお参りが済んだら火を消しましょう。うつかりそのままでは火事の原因にもなります。